

5 第二高校キャリア・パスポートの取組

本校で行っている「授業振り返り」は、これまでの「授業評価」とは視点が違う・変える必要があると伝えるために名称に工夫が加えられています。令和元年度に、「授業評価」の項目に「ID/ICE」を盛り込む工夫をし、生徒の学び方を支援することにつながるよう編集しなおしました。タイトルを『生徒主体の学びのデザイン』がなされているかを問う「授業振り返り」として実施を2年続けましたが、令和3年度から【授業振り返り～「自分の学び」と「授業のデザイン」】と名前を呼びやすくし、生徒の google classroom へ google forms で配信し、実施することにしました。

さて、特別活動を要としたキャリア教育実践のための効果的ツールに、「キャリア・パスポート」があります。2020年度スタートの「キャリア・パスポート」の目的は、以下の通りです。

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

そこで、第二高校では、「第二高校キャリア・パスポート」を以下の通り定義しました。

- ① ICE視点のチェックリスト付ポートフォリオ記述活動
- ② 授業振り返り～「自分の学び」と「授業デザイン」～
- ③ 「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか？

①について

2・3年生は classi のポートフォリオ機能内の「ストーリー」を活用した記述を実施しています。1年生については、説明スライド（後掲）を classroom に閲覧で配信し、ドキュメントで作成したフォームに書き込む形で実施します。

②について

「授業振り返り」の趣旨説明を1年生へ配付し、取組を始めます。1年生へ配付予定のスライドの forms のスクリーンショットのように、各クラスの HR の classroom へ forms を配信していただく形で、生徒が取り組みます。教務部から配信クラス（担当クラス）の提案があります。

③について

職員対象に実施している「IDの前提」の生徒向け版です。GR・ASの本「学習設計マニュアル」を使った取組の一環として実施します。

5-1 ICEモデル視点のチェックリスト付きポートフォリオ記述活動

生徒配付資料「第二高校キャリア・パスポート」

第二高校 キャリア・パスポート

生徒用資料

ポートフォリオについては、
全体像(外観)がわかるように
1項目スライド1枚で作成しています。

「キャリア・パスポート」とは

児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

第二高校キャリア・パスポートは三本柱

- ICE視点のチェックリスト付きポートフォリオ
- 授業振り返り～「自分の学び」と「授業デザイン」～
- 「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方

定期的に振り返り、記述を増やしていきましょう。

ICE視点のチェックリスト付 ポートフォリオの取組

8種類の学びの側面から自らの学びを振り返ることで、一層成長していくことができます

- ①探究活動 ②生徒会・委員会 ③学校行事
- ④部活動 ⑤学校以外の活動
- ⑥留学・海外経験 ⑦表彰・顕彰 ⑧資格・検定

各側面にICE視点のチェックリストが付けてあります。
記述する際に活用しましょう。

①探究活動

授業科目	GR・AS・SS・各教科内での探究活動
研究テーマ	GR・ASテーマ研究／ホームプロジェクト等一人いくつでも記録可
研究目的・内容	
テーマを選んだ理由	200字程度
開始日	
終了日	
研究の振り返り・今後に生かしていきたいこと	ヒント:何を学びましたか？ その項目を大学入試の面接で聴かれたら、何と答えますか？ ということをしっかりイメージしましょう。

実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。

I	活動の内容をリアルに思い浮かべられるような記述ができた。
C	自分の興味関心から出発し、知識の蓄積や挑戦や努力の積み重ねが一貫していた。
E	探究活動が、将来の自分のどの場面で生かせそうか具体的に創造できた。 創造性のある提案ができた。

②生徒会
委員会

組織名	例:生徒会、図書委員会、教科係
規模	例:全校、教科係であれば学級
役職名	例:生徒会長、図書委員長、英語係など
役職就任年月日	
役職退任年月日	
職務の内容	自分が実践したことを書きましょう
役職を通じて何を学んだか	それをどう生かしていきたいのかを含めましょう。 400字程度で書きましょう。

実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。

I	有意義で円滑な学校生活・学級活動実現のため、役割を認識できた。
C	有意義で円滑な学校生活・学級活動実現のため、自分の行動を評価できた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、学校・学級が変えられることを予想できた。

③学校行事

これは6種類フレームがあります

(1)式典・行事

日時	
行事名	
内容・要旨	
自己の役職・役割等	
役職就任年月日・役職退任年月日	
職務の内容	
職務を通じて何を学んだか	それをどう生かしていきたいのかを含めましょう。 400字程度で書きましょう。
ふりかえり	

「入学式であいさつをした」「式典リーダーとして活動した」「放送部でアナウンスした」「部活動で会場作りをした」等々、丁寧に考えてみましょう。
実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。

I	有意義で円滑な学校行事を目指し、自分の役割を認識できた。
C	学校行事での自分の行動について、関連性の中で価値づけができた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、創造性のある提案ができた。

③学校行事

これは6種類フレームがあります

(2)修学旅行
研修旅行

日時	
場所	
内容・要旨	
自己の役職・役割等	
役職就任年月日・役職退任年月日	
職務の内容	
職務を通じて何を学んだか	それをどう生かしていきたいのかを含めましょう。 400字程度で書きましょう。
ふりかえり	

SSH地域復興論・現場実習・美術科の研修等々にあります。修学旅行も学習活動ですので、学んだことをしっかりと記述しましょう。
実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。

I	有意義で円滑な学校行事を目指し、自分の役割を認識できた。
C	学校行事での自分の行動について、関連性の中で価値づけができた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、創造性のある提案ができた。

③学校行事

これは6種類フレームがあります

(3)運動会

日時	
場所	
内容・要旨	実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。
自己の役職・役割等	
役職就任年月日・役職退任年月日	
職務の内容	
職務を通じて何を学んだか	それをどう生かしていきたいのかを含めましょう。400字程度で書きましょう。
ふりかえり	

I	有意義で円滑な学校行事を目指し、自分の役割を認識できた。
C	学校行事での自分の行動について、関連性の中で価値づけができた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、創造性のある提案ができた。

③学校行事

これは6種類フレームがあります

(4)文化祭

日時	
場所	
内容・要旨	実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。
自己の役職・役割等	
役職就任年月日・役職退任年月日	
職務の内容	
職務を通じて何を学んだか	それをどう生かしていきたいのかを含めましょう。400字程度で書きましょう。
ふりかえり	

I	有意義で円滑な学校行事を目指し、自分の役割を認識できた。
C	学校行事での自分の行動について、関連性の中で価値づけができた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、創造性のある提案ができた。

③学校行事

これは6種類フレームがあります

(5)校内コンテスト(表彰)

分かる分だけでいいので、丁寧に記録しておきましょう。賞状などを写真にとって添付しておきましょう。

コンクール・コンテスト・大会名	出場部門／団体／個人
開催回	ポジション・パート・役割
開催年月日	参加形態
開催場所	順位・成績
主催者名	受賞名称／受賞者数
大会規模(全校、学年、クラス等)	記録・MVPなどの表彰
予選・審査の有無	同表彰の受賞人数
大会参加人数	大会のふりかえり

I	有意義で円滑な学校行事を目指し、自分の役割を認識できた。
C	学校行事での自分の行動について、関連性の中で価値づけができた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、創造性のある提案ができた。

③学校行事

これは6種類フレームがあります

(6)実習・研修

実習・研修名	
開始日	
終了日	
実習・研修の通算時間	
実習・研修場所(機関)	
実習・研修の内容/参加者数	200字程度
自己の役割・役割等	
ふりかえり	

夏のインターンシップ・SSH特別研修など書くことができます。実際の自分の文書には、資料を写真にとって、添付しましょう。

I	有意義で円滑な学校行事を目指し、自分の役割を認識できた。
C	学校行事での自分の行動について、関連性の中で価値づけができた。
E	自分自身の行動や協働的な取組で、創造性のある提案ができた。

④部活動

実際の自分の文書には、資料や写真も添付しましょう。

活動カテゴリ	
部活動名	
活動開始日	
活動終了日	
部活動を選んだ理由	
目標	
役割の内容	200字以内
役割を通じて何を学んだか、それをどう生かしていきたいのか(400字程度)	その項目を大学入試の面接で聴かれたら、なんと答えますか?ということをイメージしましょう。

これらは基本情報です。これ以外にスポーツ活動では、大会・試合の結果、代表への出場履歴、段位の取得等、ベスト記録、通算記録、雑誌新聞等の記録、などを記録することができます。文化・芸術活動では、作品・成果物の登録もできます。アカデミック活動(科学系部活動等)は、研究過程の記録、作品・成果物・発明・発見などを記録できます。

I	活動の内容を整理できた。
C	組織・団体の中での位置づけができ、自分の行動を裏付けることができた。
E	自分の生き方や人生を豊かにすることにつながるなど意義付けができた。地域社会の一員としての視点をもった記述ができた。

⑤学校以外の活動

活動を選んだ理由	
目標	
派遣・参加先名称	
活動開始日/活動終了日/通算活動時間	
活動内容	200字程度
活動を通じて何を学んだか、それをどう生かしていきたいのか(400字程度)	その項目を大学入試の面接で聴かれたら、なんと答えますか?ということをイメージしましょう。

スポーツ活動・文化/芸術活動、アカデミック活動、ボランティア/コミュニティ活動など様々なことが記載できます。実際の自分の文書には、資料や写真も添付しましょう。

I	活動の内容を整理できた。
C	組織・団体の中での位置づけができ、自分の行動を裏付けることができた。
E	自分の生き方や人生を豊かにすることにつながるなど意義付けができた。地域社会の一員としての視点をもった記述ができた。

⑥ 留学・海外経験

活動を選んだ理由	<p>留学、海外フィールドスタディ、海外コンクール・大会の結果、海外交流イベント(国内)、帰国生徒など、書くことができます。</p>
目標	
派遣・参加先名称	
活動開始日/活動終了日/通算活動時間	
活動内容	
活動を通じて何を学んだか、それをどう生かしていきたいのか(400字程度)	その項目を大学入試の面接で聞かれたら、なんと答えますか?というのをイメージしましょう。

I	活動の内容を整理できた。
C	組織・団体の中での位置づけができ、自分の行動を裏付けることができた。
E	自分の生き方や人生を豊かにすることにつながるなど意義付けができた。地域社会の一員としての視点をもった記述ができた。

⑦ 表彰・顕彰

顕彰の名称	(皆勤賞・感謝状・特待生等)
表彰日	
授与者・団体	
顕彰の理由・内容	
自己評価	

実際の自分の文書には、資料を写真にとって(あるいはPDFにして)、添付しましょう。

I	表彰・顕彰の内容を整理できた。
C	これまでの自分の行動を裏付けることができた。
E	自分にとっての意味や意義付けをすることができた。

⑧ 資格・検定

資格・検定名	
レベル・スコア	
主催団体名	
取得日/有効期限の有無	
ふりかえり	

実際の自分の文書には、資料を写真にとって(あるいはPDFにして)、添付しましょう。

I	挑戦できた。
C	価値付け(関連性の中の位置付け)ができた。
E	自律的(自分をコントロール)であったか診断できた。自分の進歩を漢詩できた。

「授業振り返り」 ～自分の学びと授業デザイン～の取組

google formsへ配信されますので、取り組んでください。
7月・12月に実施します。

「授業振り返り」～自分の学びと授業 のデザイン～

「授業振り返り」は、自分の学びを考える機会です。みなさん自身の学びをよくするためですが、同時に、毎日の各授業自体のデザインがどうかを考えてください。先生たちは、その意見を基に、日々に授業を一層よくしていきます。

みなさんが手元に持つ「学習設計マニュアル」は、「学び方を学ぶ」本です。この「授業振り返り」には、難しい言葉も出てきますので、関連するページと説明を加えています。関連する内容は1つではなく、本のあちらこちらにあります。気になる部分は、ぜひ本を開いて理解を深めてください。

あなた自身の学び方が深化していくことを期待します。

このフォームを送信すると、メールアドレスが記録されます

担当の先生を選択してください。

※先生方は職員名票（経営案番号順）で表示してあります。生徒に番号を伝えると分かりやすいです。

選択

振り返る授業の「科目名」を記入してください。*

回答を入力

1. 授業のデザインはどうか？

授業のがどのように準備され展開されているかを考えましょう。
それぞれの記述にあてはまるレベルをMAX4で答えてください。
以下10項目です。

※設問はすべて「ICEモデル」の視点で分類されています。
I (Ideas) は知疎、C (Connections) はつながり、E (Extensions) は応用・発展を表します。

①授業（教材）では目標が何か理解できる機会がありますか？（I）*

目標を提示することで、全体の活性化・焦点化につながります。【学習設計マニュアルP127 / 章2：授業の目標を知らせる】

	1	2	3	4	
あまり機会がない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分な機会がある

②授業（教材）では知識を「体得する」機会がありますか？（I）*

新しい事柄を提示して記憶に組み込む作業と、いったん記憶に組み込まれたものを引き出すための道筋をつける作業です。最後にまとめをして、出来具合を確かめて、学んだことを忘れないようにします。これらは「記憶のモデル」と関係しています。【学習設計マニュアルP131～133 / 具体的な学びの工夫例】

	1	2	3	4	
あまり機会がない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分な機会がある

③授業（教材）では「思考を促される問い」がありますか？（C）*

単元を通して思考したことが、授業での問いかけや教材によって意識できましたか？

	1	2	3	4	
あまり意識できていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分意識できている

④授業（教材）では「思考を促される工夫」がありますか？（C）*

取り入れられている工夫が「A：おもしろそうだ」「R：やりがいがありそうだ」「C：やればできそうだ」「S：やってよかったな」のどれにあたるでしょうか。【学習設計マニュアルP117 / A R C S（アークス）モデル】

	1	2	3	4	
あまり意識できていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分意識できている

⑤授業（教材）では生徒同士で思考を促し合う機会がありますか？（C）*

「思考を促し合う機会」は、ペアやグループでの話し合い、記述したものの閲覧、他者への気付き・感想、他者への質問などがあります。これにより、他者との意見交換による気付きが得られます。また、P88には、協働学習をうまく行っていくために要配慮すべき原則が掲載されています。【学習設計マニュアルP153 / 練習とフィードバックの「温度」】

	1	2	3	4	
あまり設けられていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分設けられている

⑥授業（教材）では、思考・成果をアウトプットする機会がありますか？

(C) *

「書く」ということはメタ認知を行う中で、特に重要な活動です。これに加えて、口頭発表（ペア、グループ、全体）、身体表現、紙面発表（文字、図）、音声記録などアウトプットは様々なスタイルがあります。【学習設計マニュアルP28 / 「書くということ」について】

	1	2	3	4	
あまり設けられていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分設けられている

⑦授業（教材）では、次につなげる振り返りができていますか？ (E) *

その状況で何が本質的であるかをわかるようになることや、経験から学ぶことができるようになることです。そのような振り返りの機会が十分でしょうか。

	1	2	3	4	
あまり設けられていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分設けられている

⑧授業や課題・考査等では、知識獲得の確認だけでなく、知識にまつわるプロフィールをひろげていく機会がありますか？ (C) *

プロフィールとは「側面、輪郭」という意味です。創造的読書、考査の内容、考査解答の複数提示、レポートの内容などによって、「知識が広がる機会」は設けられていたでしょうか？

	1	2	3	4	
あまり設けられていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分設けられている

⑨授業や課題・考査等では、知識同士をつなげる機会はありますか？ (C) *

教科内での様々な領域を結び付けたり、複数教科の関連性を意識したりする場面はあったでしょうか？

	1	2	3	4	
あまり設けられていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分設けられている

⑩評価は多面的に行われていますか？ (E) *

客観テスト・ルーブリック評価・他者からの評価・自己評価など、さまざまな評価が設けられていますか？

	1	2	3	4	
あまり設けられていない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	十分設けられている

戻る

次へ

2. 授業における自分の態度を俯瞰しよう

その授業での、あなた自身の取組みはどうでしたか？取り組み姿を客観的に評価してみよう。

①授業（教材）の目標を理解できていますか？*

1 2 3 4

あまり理解できていない 十分理解できている

②授業（教材）では、知識を体得しようとしたか？（I）*

1 2 3 4

あまり取り組まなかった 十分取り組んだ

③授業（教材）では、思考を促される問いに答えようとしたか？（C）*

1 2 3 4

あまり答えようとしなかった 十分答えようとした・答えた

④授業（教材）では、思考を促され、自分から思考を深めようとしたか？（C）*

1 2 3 4

あまり深めようとしなかった 十分深めようとした・深まった

⑤生徒同士で思考を促し合おうと行動しましたか？その行動で、貢献できましたか？（C）*

1 2 3 4

あまり貢献（行動）できなかった 十分貢献（行動）できた

⑥授業（教材）を通して、思考や成果をアウトプットしようとしたか？（C）*

1 2 3 4

あまりできなかった 十分できた

⑦授業（教材）では、次につなげる振り返りができましたか？（E）*

1 2 3 4

あまり振り返ることができな
かった 十分振り返ることができた

⑧授業や課題・考査等では、知識獲得の確認だけでなく、知識にまつわるプロフィールを広げようとしたか？（C）*

1 2 3 4

あまり広げることができな
かった 十分広げることができた

⑨授業や課題・考査等では、知識同士をつなげようとしたか？（C）*

1 2 3 4

あまりつなげることができな
かった 十分つなげることができた

⑩評価を通して、自分の力を多面的に伸ばそうとしたか？（E）*

1 2 3 4

あまり行動できなかった 十分行動できた

戻る

次へ

3. 自分の取組みは総合的に・・・？

① 自分の取組を振り返ると、いくつ〇を自分にあげられると思いますか？*

1 2 3 4

あまり評価できない 十分評価できる

② その理由を書いてください。*

回答を入力

③ 今後、どのように改善しようと思いますか？*

「学び方を学ぶ」ための 前提となる考え方：同意できますか？ の取組

本「学習設計マニュアル」を使った取組の一環として取り 組みます(前半部分)

「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか？ R 2
次に挙げる【「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方】14項目に賛成してみてください。
同意全てに、その文章の根拠となるモデルと「学習設計マニュアル」の章が添えられています。難しくわからない時は、「仮定」でいいですね。
GR/ASでの「学習設計マニュアル」の取り組みを経て「学び方を学ぶこと」の理解が少しずつ深まり、この
個人ワークの「むっかかり」が「納得」→「達成」へと変化していきますように。

- 1.人によって学習ペースは違うが、その人にとって十分な時間をかければみんな最終には学習目標を達成し、自分で学ぶで獲得する領域が徐々に増えていく。(時間モデル：第9章)
- 2.全部覚えていなくても応用範囲に取り込むことはできる。必要な前提を学習しながら、後者に掛けられながら学習に取り組む中で、必要な知識・スキルを書籍と手に付け、自分一人ですべての学習の範囲を徐々に広げていくのが「画のまなび」である。(図像学習：第17章)
- 3.人は、状況を覚える(インプット)だけでは学べない。生徒が自ら行進して、自分なりの知識を積み立てていくのが体系的な学習方法であり、筋と身体、記憶と応用力ではそれぞれ最適な学習方法がある。(9段階学習：第12章、流域主題)
- 4.人は失敗をしてその課題を学習しようとするので学ぶ。失敗したときにその理由を考え、次に失敗の理由を考え、成功事例をひらいていくのが、自立した学習者になるために効果的である。(個別指導発端：第10章)
- 5.何かを学ぶときには、そのことだけを理解することを目指すよりも、「これが役に立つ場面はどこにありそうか」を分かって、学ぶ意味を感じながら学ぶようにするのがよい。(状況学習)
- 6.覚えてもらおうとすればするほど自主性を奪われる結果になりかねない。先生に頼るばかりは置いて、自分で選択・判断して責任をもち、「自分学」だ。自分がやらないうと学習は前に進まないのだと理解するのがよい(個人学習)

本「学習設計マニュアル」を使った取組の一環として取り 組みます(後半部分)

- 7.学び方は状況によって違う部分もあるが、共通した学び方もある。適当科目の学び方を他科目に学ぶときにも使えるかどうかを試してみるのには制限ではない。(汎用性)
- 8.学び方は自分の経験だけで工夫して身につけるだけでなく、学び方のノウハウとして習得されることを自分で意識して試してみる方が、短時間で身につく。(教育の科学化)
- 9.学習に役立つ「学び方」の高効率化や他の人のノウハウは、教材場所でも汎用して活用してよい(習得主題)
- 10.学習の評価は、学習時間(プロセス)ではなく、学習成果で行われるべきである(標準主題でなく習得主題)
- 11.前送すべき目標をすでにクリアしていることが確認できた生徒は、次の段階の学習に取り組めるようにしてよい(段階テスト：第13章)
- 12.個別の責任は、最低条件を生徒に明示して、習得のチャンスを与え一人ですべてできるように導くことであり、先生が実際にそこに到達するかどうか責任を負うことはできない(学習設計：第18章)
- 13.やる気のない自分を受け入れず、その気にならうと工夫することは、学習の責任範囲に含まれる(機械付け教材、ARCSモデル：第11章)
- 14.高校生での学びは小学生のように覚えているといけない。学習方法の中にも自分で選択・判断して、学ぶ責任は自分にあることを明らかに理解するのがよい。(自己主導学習)